# ２１世紀の日本のかたち（１１７）

## 令和の森・平和公園
## ― 国立追悼空間についての提案 ―

戸沼幸市
＜(一財)日本開発構想研究所 代表理事＞

### １．戦争と平和―令和元年の夏

令和元年（2019年）の夏も猛暑が続き、８月初めの台風10号、８月末の記録的九州北部地方大雨災害では死者も出、36万世帯、87万人以上に避難指示が出るほどでした。

現代、グローバルとローカルの交叉する国と地域において、しばしば不協和音も聞こえてきます。国家間では紛争地域に戦争状態も起きております。一時、収まるかに見えた米中の貿易摩擦は、８月、米の関税引き上げ、中国の報復といわば貿易戦争が続いています。米中はロシアと共に半端ではない数の核を持つ強力な軍事大国です。

６月に始まった香港民主化デモは３ヶ月近くなるのに未だ終息の気配は見えません。朝鮮半島では北朝鮮が短距離ロケットの発射を繰り返し「戦争状態」が続いており、この地域の和平の動きは一進一退です。日韓問題も元徴用工訴訟を巡って両国で応酬が続いており、韓国は日本に対して日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA)の破棄を通告してきました。アメリカは台湾に新型 F16戦闘機を66機売却との報もあります。北東アジアの安定、平和を脅かす事態が依然として続いております。

令和元年の暑い夏に蝉がここを先途と鳴いており、第101回の甲子園高校野球が８月６日開幕、参加校3,730チームの頂点を懸けて熱戦が繰り広げられました。22日に決勝戦が行われ、大阪の履正社高校が石川の星稜高校に５対３で勝って初優勝を果たしました。大阪勢の優勝は２年連続でした。

この夏も若い体が躍動する各種スポーツが充分に展開されておりましたが、女子ゴルフの渋野日向子（20才）選手の全英オープンでの優勝は日本勢42年ぶりとか、その笑顔とともに光ります。日本武道館で行われた柔道世界選手権では女子78kg 超で素根輝（19才）が優勝するなど、スポーツの栄光は平和あってこそのものと改めて実感させる８月でした。

来たる９月20日、ラグビーワールドカップ（W杯）日本大会が開幕します。そして来年、2020東京のオリンピック・パラリンピックの準備も進んでおります。

### ２．沖縄全戦没者追悼式　６月23日

沖縄は終戦直前、おびただしい数の住民を巻き込んだ地上戦が繰り広げられ、日米合わせて20万人、一般住民など沖縄では県人12万人余が犠牲者となりました。

６月23日、沖縄県、沖縄県議会主催の令和元年沖縄全戦没者追悼式が、糸満市摩文仁の平和祈念公園において、多くの県民、安倍首

相も出席して開催されました。追悼式では主催者を代表して玉城デニー知事は、いまだ米軍基地の多く残る沖縄の現況を踏まえて次のように宣言しました。

「戦火の嵐吹きすさび、灰燼に帰した<わした島ウチナー>。県民は想像を絶する極限状況の中で、戦争の不条理と残酷さを身をもって体験しました。あれから74年。忌まわしい記憶に心を閉ざした戦争体験者の重い口から、後世に伝えようと語り継がれる証言などに触れるたび、人間が人間でなくなる戦争は、二度と起こしてはならないと、決意を新たにするのです。・・・

しかし、沖縄県には、戦後74年が経過してもなお、日本の国土面積の約0.6%に、約70.3%の米軍専用施設が集中しています。広大な米軍基地は、今や沖縄の発展可能性をフリーズさせていると言わざるを得ません。・・・

国民の皆さまには、米軍基地の問題は、沖縄だけの問題ではなく、わが国の外交や安全保障、人権、環境保護など日本国民全体が自ら当事者であるとの認識を持っていただきたいと願っています。・・・

本日、慰霊の日に当たり、国籍や人種の別なく、犠牲になられた全ての御霊に心から哀悼の誠をささげるとともに、全ての人の尊厳を守り誰一人取り残さことのない多様性と寛容性にあふれる平和な社会を実現するため、全身全霊で取り組んでいく決意をここに宣言します。」

基地問題に対して死と引き換えに、壮絶な戦いを挑んだ翁長雄志前知事を引き継いだ玉城知事の重い宣言です。

### ３．広島・原爆の日　８月６日

８月６日、米軍による原爆投下から74回目の原爆の日、５万人を超える市民、安倍首相、92か国の駐日大使らが参列し、広島市中区の原爆ドームの見える平和記念公園 *1 において、平和記念式典が行われました。

**図１　平和記念式典　広島平和記念公園・慰霊碑前広場**

資料：『広島平和記念公園』アート印刷株式会社 発行・制作、撮影 赤塚弘光

図２　平和記念公園とその周辺

資料：「ポケット版ヒロシマ平和情報」広島市発行

松井一実 広島市長、平和宣言

「二度の世界大戦を経験した私たちの先輩が、国際的な協調体制の構築を誓ったことをいま一度思い出し、人類の存続に向け、理想の世界を目指す必要がある。・・・日本政府には核兵器禁止条約への署名、批准を求める被害者の思いをしっかりと受け止めていただきたい。」

安倍首相

「核兵器によってもたらされた広島と長崎の悲劇を決して繰り返してはなりません。唯一の戦争被爆国として、[核兵器のない世界]の実現に向けた努力をたゆまず続けること、これは令和の時代においても変わることのない我が国の使命です。」

今年は未完成であった第二の資料館がオープンし、生々しい原爆投下当時の記録が追加されて展示公開されておりました。

## ４．長崎・原爆の日　８月９日

８月９日、広島につづいて米軍による原爆投下から74年目のこの日、長崎市の平和公園で平和祈念式典が安倍晋三首相、66か国の駐日大使、多数の市民が参加して行われました。

式典では田上富久長崎市長が平和宣言において、来年発効50年を迎える核不拡散条約にふれ、「積み重ねられてきた人類の努力の成果が次々と壊され、核兵器が使われる危険が高まっている。・・・すべての核保有国は核兵器をなくすことを約束し、その義務を負ったこの条約の意味をもう一度思い出すべきです。」と訴えました。

被爆者代表としてこれまで世界に向かって、晩年、自習の英語を交えて核の恐ろしさを世界に訴え続けてきた山脇佳朗さん(85才)は、この日、安倍首相を前に一文を読上げました。「被爆者が生きているうちに＜核兵器を無くそう＞と働きかけて下さい。それが被爆者に報いる道だと思います。」(please lend us your strength（どうか力を貸してください)・・・・・・make sure that Nagasaki is the last place on Earth to suffer an atomic bombing(長崎を原爆で苦しむ地球最後の地にしてください)」。

## ５．終戦記念日　８月15日

この日台風10号が中部地方を縦断し、東京も雨模様でした。気温は東京でも35℃に達し、日本海側は40℃を超えておりました。令和初の終戦記念日、恒例の政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開催され、先の大戦で亡くなった310万人を悼む式典が行われました。この中には私の幼少期、一緒に生活をしていた従兄(アッツ島で戦死)

も入っております。式典の参列者は戦後生まれが３割を超えたとか。参列する遺族の世代交代が進んでいる様子です。新しい天皇、皇后が、やや緊張した様子で入場され、12時ちょうど、１分間の黙祷があり、天皇がお言葉を述べられました。

**写真１　全国戦没者追悼式が行われた日本武道館**

資料：東京新聞、2019年8月16日

**写真２　全国戦没者追悼式でお言葉述べられる天皇・皇后両陛下**

資料：読売新聞、2019年8月16日

**天皇陛下のおことば（全文）**

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」にあたり、全国戦没者追悼式に臨み、先の大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。終戦以来74年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、ここに過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返さぬことを切に願い、戦陣に散り戦火に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

令和時代の幕開け、新しい象徴天皇は、先の戦争について「反省」を述べられ、沖縄、広島、長崎はもとより、太平洋戦争の傷跡の残る各地を訪問され、慰霊の旅を続けられた上皇陛下の姿勢を継承されることを強く印象づけました。

全国戦没者追悼式の主催者、安倍晋三首相の言葉が続きました。

「戦争の惨禍を二度と繰り返さない、この誓いは、昭和、平成、そして令和の時代においても決して変わることはありません。平和で希望に満ち溢れる新たな時代を創り上げていくため、世界が直面しているさまざまな課題の解決に向け、国際社会と力を合わせて全力で取り組んで参ります。今を生きる世代、明日を生きる世代のために、国の未来を切り開いて参ります。終わりに、いま一度戦没者の御霊に平安を、ご遺族の皆様にはご多幸を心よりお祈りし、式辞といたします。」

反省についての文言はありませんでしたが、未来志向の首相としての「平和」への意志を示した式辞でした。先の戦争を引き起こした国として、「平和への意志」をどのようなかたちにして示すのか。

戦争の悲惨さについては昭和８年生まれの私などの場合、すぐ上の世代が戦争に駆り出され、多く戦死しましたし、日本国内においても沖縄戦や広島、長崎の原爆、東京大空襲など、多くの都市が破壊され、多数の市民が焼死した情景が記憶に残っております。改めて不戦の誓い、平和の大切さを想います。そして戦後生まれの世代が８割を超え、ディストピアが広がる戦争の悲惨を次世代に語り継ぐ必要を強く感じます。

先の戦争について、終戦後、昭和天皇が初代宮内庁長官を務めた田島道治氏と交わした約５年間の記録が、８月末NHKで放送されました。戦争への悔恨、「反省」という字をどうしても入れなければなど、「君主」を引きずる初代「象徴」天皇像が生々しく読み取れます。

**写真３　サイパン島のバンザイクリフに向かって黙礼される両陛下（2005年6月）**

資料：読売新聞、2019年4月30日

## ６．令和の森・平和公園ー国立追悼空間の提案

令和最初の８月の一日（8月10日）、東京の地理・地形に詳しい松本泰生氏と、例年終戦の8月15日、東京で行われている戦没者追悼の式典会場、千鳥ヶ淵戦没者墓苑や武道館、皇居のお堀端、靖国神社などをフィールドノートを片手に散策してみました。千鳥ヶ淵戦没者墓苑は訪れている人がまばらでしたが、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会会長の津島雄二さんが、千鳥ヶ淵墓苑を戦争の記憶を語り継ぐためにもフランスのパンテオン（偉人廟）のような性格を併せ持つ追悼施設へと拡充できないものかというアイデアを述べている（朝日新聞8月6日）のを知り、奉仕会の古賀英松理事長に改めてお話を伺いました。

津島さんの想いは「今の社会は国難に殉じた方々の犠牲の上に築かれていることを忘れてはいけません。千鳥ヶ淵墓苑は二度と戦争をしてはいけないと脳裏に刻みつける場であってほしい、そのために拡充したい」ということですが、ではどのように拡充するのか。

**写真４　千鳥ヶ淵戦没者墓苑**

戸沼撮影　2019年8月10日

**写真５　日本武道館の外観**

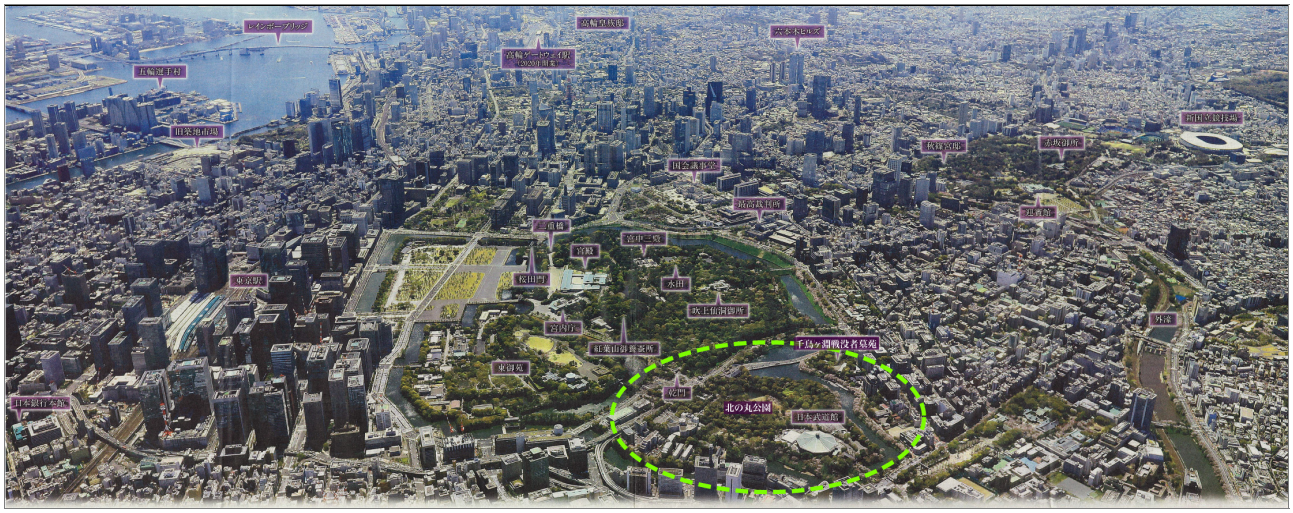
戸沼撮影　2019年8月10日

例年８月15日に政府主催の全国戦没者追悼式が行われる武道館は、この日以外は主として体育館、時に音楽のライブなどの会場となるといった、いわば貸しホールです。私どもが出向いた８月10日に屋根の補修工事が行われておりましたが、外部空間は大きな駐車場があるだけで特に戦没者を追悼する雰囲気といったものがあるものではありません。この点では戦争資料を展示している遊就館を持つ靖国神社は、一つの全国戦没者追悼空間に違いありません。ただA級戦犯が祀られてから政治と宗教の分離の原則から問題が生じており、近年は天皇陛下も総理大臣、閣僚なども８月15日に参詣することがなくなってしまいました。

東京、日本には戦後74年経った今も、国立の「追悼、平和祈念のための記念等施設」がないのです。この点について、昨年８月15日、読売新聞のインタビューに答えて、元総理福田康夫氏は「戦後70数年も経ち、わだかまりなく追悼し、平和を祈念できる施設がないのがおかしい。天皇陛下もおいでになれる、外国の賓客もおいでになれる、全国追悼式も挙行できる、外国の賓客も訪れることができる、そういう施設を造りましょうよ。」と語っております。＊2

私としても日本終戦の日、８月15日、日本武道館での中途半端な全国追悼式典に釈然としないものがあり、新しい国立追悼空間をつくるべしという思いに駆られ、仲間うちで勉強会を始めたりしております。例えば次の一案が浮かびます。

**図３　令和の森／平和公園／国立追悼空間**




資料：読売新聞　2019.5.1の写真に筆者加筆

**令和の森・平和公園ー国立追悼空間の設計**

・国立追悼空間の必要性、意義

戦後74年を迎え、戦争、戦後の混乱を知らない世代が多くなり、薄れていくばかりの戦争の記憶を受け継いでいくことは、日本社会全体の課題である。この課題を受けて、戦争で亡くなった民間人も含めて、戦没者を追悼し、平和を祈念する無宗教の追悼空間、内外に開かれた国立の平和公園をつくることは必要であり、意義深いことである。

令和年代の世界に向けた21世紀、日本の平和宣言でもある。

・立地場所

皇居の森に隣接し、北の丸公園、千鳥ヶ淵墓苑、武道館、お堀の水面を含む一帯（約36～50ha）

・設計

記念碑、資料館、広場、公園等の設計などは公募

**【参考資料】**

＊１　広島 平和記念公園（12.2 ha）

昭和26～30年、慰霊碑、原爆資料館、平和記念館、供養塔、公会堂、平和の鐘、原爆ドーム

＊２　『追悼・平和祈念のための記念碑、施設の在り方を考える懇談会とりまとめ』（平成14年12月24日）福田康夫（官房長官当時）設置

2019/09/12